

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100371		
法人名	有限会社 ブランタン東川		
事業所名	グループホーム ブランタン東川		
所在地	上川郡東川町北町3丁目520番17		
自己評価作成日	平成23年1月31日	評価結果市町村受理日	平成23年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東川町の落ち着いた環境の中で、地域に根ざした事業所を目指し、地域の方とのふれあいを大切に、町内行事や町内にある施設との交流を行っています。事業所内では家庭的な環境を提供していくことを大切にし、その人の立場に立ち、その人の気持ちを理解し、支援していくなかで、本人の希望や要望を尊重し、できる事は一緒に行うことを第一に考えています。食材などに関しても、東川町産のものを多く使用するように心がけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173100371&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年2月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東川町民の方々が、利用しやすいよう他に類を見ない低額の家賃設定で開設した当ホームは、より優れたホーム作りを目指して家族、運営推進会議、行政、外部評価等の意見や要望に基づいて地域との密接な関係構築、利用者本位の介護、職員の人材育成などの推進に施設長以下職員の努力の様子が伺えます。その成果として、利用者の地域行事への積極的参加や近隣住民の方々からの野菜等の差し入れなど、地域との日常的交流、計画作成者を中心として、より分かりやすく見やすい介護計画の検討、職員の外部研修参加によるレベルアップなどがあり、これらに職員間の良好な人間関係と相俟って利用者への家族的で親身なサービス提供となっています。ホームで暮らす利用者の表情も明るく、来訪する家族も利用者の様子を見てホームの対応に満足しています。ホームは開設6年目を迎えますが、利用者の住みやすさにも努力して館内の清潔保持や衛生面にも十分配慮しており、全居室には無料で電動ベットを配置するなど、利用者本位のホーム運営に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念と介護理念を各ユニットごとに掲示しいつでも確認し日々のケアで実践できるようにしている。	ホームは、地域との連携を謳った独自の理念を館内の随所に掲示し、職員は理念を意識しながら、日常の業務を行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加している。又、事業所で行う講習等に回覧板で地域の方も参加を呼びかけている。時々散歩時に地域の方から野菜や花などを頂いている。	従来から地域との連携に努めていたが、さらに、ホーム行事への参加呼びかけ、散歩時の挨拶、住民の方々から野菜などの提供等と地域との交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と地域の方との交流により認知症の理解を深めてもらおうと努めている。高校生ボランティアを受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動状況や施設での生活の報告を行っている。参加して頂いた方にも感想や意見を頂きサービスの向上に努めている。	会議は2ヵ月毎定期的に開催し、ホーム運営に関する意見交換や消防署の協力を得て防災対策など話し合っています。会議メンバーも民生委員などの増員を予定しています。	運営推進会議の結果については、会議開催の意義の理解とホーム運営への協力を頂くため、欠席したメンバーや家族への送付を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは運営推進会議を通して連携を図っている。地域包括支援センター主催の地域連絡会議に参加し連携を深めるように努めている。	行政担当者と町の運営推進会議を通して連携していますが、主として施設長が頻繁に行政窓口を訪問し、相談や情報交換を行い、町との協力関係を維持しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し観覧できるようにしている。玄関の施錠は行っているが、本人の希望に沿って散歩等をおこなっている。	身体拘束防止マニュアルは完備し、職員も身体拘束のないケアについて理解しています。さらに、これらの外部研修への職員参加も予定しています。しかし、諸事情により、家族の了解を得て日中も玄関施錠があります。	玄関の日中施錠は、幹線道路に面しているための危険回避や見通しの悪い建物構造から、やむを得ない事情にあります。しかし、日中の玄関施錠は身体拘束のため、今後、できるだけ日中の施錠を行わない工夫を研究し、施錠を最小限にとどめることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状の把握と虐待ととられるような言動や行動をしていないかお互いに確認しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受講し学んだことを活かせる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に当たり見学や面談を重ねて十分に説明し納得された上で契約を行っている。解約や改定等にも家族に納得が得られるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会の際に意見・要望等を伺い、家族や利用者の要望に答えられるよう努めている。又、家族や利用者が話しやすい環境を作るよう心がけている。	利用者の様子は、家族来訪時の口頭と写真を付けた詳細な報告書送付をしています。要望等は相談受付表に記録し、会議等で課題解決に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや日頃のコミュニケーションを心がけ、その中で意見や提案を聞いている。可能な限り答えられるよう努めている。	施設長や管理者は、日常業務において職員からの提案等を聞くように努めており、毎月の定例会議で協議しながら、運営に反映させるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回、人事考課を役員・管理者で設けて職員の就業意欲を向上してけるように適正な判断をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に出来るだけ多く参加するようにしている。参加者にはレポートを書いてもらい、今後の支援に活かせる様にしていく。研修資料は職員がいつでも観覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に参加し、他事業所での事例や情報交換を行いサービスの向上に繋げていけるよう努めています。又、地域の連絡会議にも参加し情報交換も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートを活用し情報を得て様子観察を行いコミュニケーションをとりながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談時や面談時などに入居するにあたり不安なこと・要望等を聞き、できる限りの支援が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の不安・要望等を伺い、必要とされていること出来るだけ対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にできる事は共にし、その中でお互いの情報を共有し、勉強させて頂きながら苦楽を共にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時に家族に近況報告をし、その中で家族や本人からの要望等を聞き、家族、本人の意向に沿うように努めています。又、毎月、手紙にて近況報告を行い、希望があれば家族に電話したり、行事等の参加を依頼しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所などを聞き、把握してから家族に確認を取りその場に訪れたりしている。	利用者の馴染みの場所への訪問は、希望がある時、家族へ確認を取りながら職員が対応しています。さらに、家族や知人がホームへ訪問しやすい様に配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が思いやりを持った行動が見られ、状況に応じ職員が橋渡しをし利用者同士が孤立しないように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族との関係を大切にし、相談等があれば対応している。状況によっては連絡などを取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の暮らしの中で本人の意向に沿うように支援しています。困難な場合は本人の状況によって検討し支援できるよう努めています。	日常業務から利用者の思い等を把握していますが、把握困難な場合は表情や行動、家族からの情報を参考にし、利用者本位に支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを活用し、家族、本人から情報を得て、ホームでの生活に馴染めるような環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況の把握のために申し送り、介護記録を活用して本人の生活を把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全体で本人、家族の希望や要望、問題点を確認し話し合い、現状に即した計画に反映している。	計画作成者は、見やすく分かりやすい介護計画書への改善に努力し、医療機関や家族とも相談しながら、現状に即した計画を作成して、会議で全職員の共有としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録・申し送りノート・カンファレンスにて情報の共有をし、支援に対する日々の変化を元に検討し実践・介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員全体で本人の問題点を話し合い、本人に対し支援を行っている。その状況に応じ管理者に報告し、今後の対応などを検討しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で諸問題を検討したり協力要請を行い交流を図っている。又、散歩や地域の行事等に参加し交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関での受診を受けられるよう支援している。適宜主治医との連携をとり、受診など早期に対応を行っている。	2週毎に24時間対応協力医療機関の往診がありますが、家族や利用者の希望で、かかりつけ医の受診も自由です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、連携医療機関の看護師が来ている。その時に利用者の状況を詳しく伝達したり相談を行い助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、本人の状況を確認しながら、家族、病院関係者と連絡等を密にし情報交換を行い、速やかに再入居できるように調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には看取りについての姿勢を伝えて、利用者の状況により家族や主治医、看護師に状況を報告しできる限り支援できるよう努めている。	重度化や終末期に向けた指針を作成していますが、家族への説明は昨年からはじめ、同意書を得ています。	利用者の重度化や終末期に対するホームとしての具体的な対応策をさらに詳細に詰めて家族の理解を得ると共に職員が十分にこの方針を理解し、共有することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の心肺蘇生の講習を行い、職員が学ぶ機会を設けている。又、対応マニュアルを職員の目の届く所に配置しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災訓練の実施と共に、避難場所等を把握し対応できるよう周知、徹底している。消防規定や組織図を目の届くところに配置しています。	災害対策は、夜間想定訓練を含めて定期的に訓練を実施し、消防署の協力も得ています。運営推進会議においても災害対策への協力を要請しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不快な思いをさせず、プライバシーを尊重し同じ目線で物事を見つめ、訪室時等、声かけノックを行っている。	職員は、日常業務において利用者には不快な思いや誇りを損なうことのないよう、十分配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの判断や自己決定を促し、本人の気持ちを優先し、本人の希望が言える環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合ではなく、一人ひとり希望やペースに沿った生活が送れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や本人が希望されるときには、服と一緒に選び、化粧・整容等を行っている。定期的に訪問理容・美容を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好み聞き、メニューに取り入れている。残存機能を生かしながら準備、片付け等に協力して頂いています。	献立メニューは、職員が利用者の好みを反映させて作り、食事関連の作業や食事を職員と一緒にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録等を活用して、水分、体調を把握し、状況に応じて主治医に相談栄養補給に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の残存機能を生かして、毎食後のうがい、歯磨きを行い、定期的に入れ歯の洗浄を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけを行い、排泄を促し申し送りノート、介護記録等で個々のパターンを把握して、トイレでの排泄を促しています。	利用者の排泄チェック表を作成し、一人ひとりに合わせた誘導などの支援をしています。これによって、おむつやパットの使用減など、排泄の自立支援効果が表れています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レク、体操を定期的に行い、食物繊維、オリゴ糖を利用して食事を工夫しています。状況によっては主治医に相談し、予防に努めています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調、希望に応じ湯加減等を考慮しています。楽しんで入浴して頂けるよう、色々な会話をしたり入浴剤等を入れています。	入浴は、週2回以上を原則として、日中の午前と午後実施し、お湯も随時取り替えています。入浴を拒む方には、無理をせず柔軟に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファ、居室等個々の安らげる場所でくつろげるよう、又、安心して休息でき安眠できるよう支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤表を職員の確認できるように配置しています。服薬時は支援を行い、薬変更時には申し送りを行っています。状況の変化により主治医に相談しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フェイスシートや本人の趣味や好きなことを把握するように努めています。カラオケや懐メロが聴け、本人の要望があれば外出等の支援を行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って散歩や買い物、ドライブなどを行い、町内の行事にも参加しています。又、ご家族の協力や理解のえて外出されています。	利用者が四季を感じ取れるよう散歩や買い物、地域行事への参加など、戸外へ出る機会を増やすようにしています。花見や公園などの遠出も車両を利用して実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望やご家族了解の上、小額であるが金銭を所持しています。本人希望のものは状況に応じて本人が買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族に電話しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の温度、湿度を確認することにより空調管理を行っています。共有空間にはカレンダーや行事などの写真を飾っています。	建物構造は、内部から入口付近の見通しが悪い問題点もありますが、総体的に内部は明るく、清潔感が保たれ、湿度や温度も適正に管理されています。居間兼食堂は、写真や飾りがあって、家庭的で親しみのある雰囲気になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で気楽に過ごして頂ける様席を考慮したりしています。安全保持のため物の配置を考え、個々の意見を尊重し過ごせるような環境作りに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が持ってきたものを使用しています。配置や生活用品等は、本人の希望に沿うように支援し、居心地よく過ごせるよう努めています。	大きな窓によって明るい居室は、広く余裕があります。室内には電動ベッドが無償で備え付けられ、好みの調度品等を自由に持ち込み、居心地良く過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーです。手すり等の安全な環境づくりの為に、定期的に点検を行っています。本人の残存機能を活用し安全に生活できるよう努めています。		